



会報

2018 ▶ 2019
WEEKLY REPORT

留萌ロータリークラブ
会長目標

親睦と奉仕、
閃きと実行

インスピレーションになろう

会長／大嶋 孝広 幹事／堀 光輝

プログラム

(第11号・第12号) 合併号

- 本日
慶祝夜間例会
- 次週予定
会員増強に向けて (会員増強委員会主催)

No. 2797

第11回 9月26日

出席報告

前例会

会員総数	33名
出免会員	2名
出免出席	2名
基準会員出席	21名
出席率	69.70%

前々会

第8回 8月29日

欠席会員	13名
内メイクアップ	0名
修正出席率	66.61%

例会／毎週水曜 12:15~13:15 留萌産業会館2F

📌 会長報告

1. 9月8日開催予定でした地区補助金事業のもいお仕事体験事業が9月6日未明に地震が起こり、復旧に1週間程度かかるとの報道があり、2日後に控えていたお仕事体験事業を延期するかどうか、参加する子供たちに連絡等もありましたので、私と幹事、社会奉仕委員長による協議の結果、私の判断で延期する事にいたしました。準備していただいた会員の皆様にはご迷惑をお掛けいたしました。この場をお借りしてお詫びいたします。延期の時期につきましては本日臨時理事会を開催し決定したいと思いますので、会員の皆様には決定しだい連絡いたします。

📌 幹事報告

- 羽幌RCと赤平RCより8月会報を受領しました。
- 先週、先々週の例会で皆様にご協力をお願いした米山梅吉記念館の100円募金運動に6000円が集まりました。9月5日に送金いたしました。
- 前回の例会にてお知らせいたしました、ロータリージャンパーの関係ですが、本日見本を持ってきております。LサイズとLLサイズです。試着等をしてサイズを注文書にお書き下さい。よろしくお祈りいたします。

ゲスト 留萌観光協会

常勤理事 海東 剛哲様

委員会報告

社会奉仕委員会 燕委員長

会長報告でもありましたが、地区補助金事業職業体験「るもいお仕事体験」が地震災害の関係で延期になりました。会員の皆様には準備等で大変お世話になりましたが、日程等が決まりましたら再度皆様にご連絡させていただきますのでよろしくお願いいたします。それと9月21日に交通安全旗の波運動が開催されます。午後4時30分四十坊さん前です。後日FAXにてご連絡いたしますので、よろしくお願いいたします。

親睦活動委員会 鈴木委員長

9月26日の特別慶祝夜間例会の出欠を確認しています。今回は對馬会員さんが古稀を迎えられますので、みんなでお祝いをしようと思っております。お忙しいのですが、ご出席の程をよろしくお願いいたします。また、当日は小銭を用意していただければと思います。ゲーム等にて楽しみたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

3分間情報

ロータリーの原点を考える 「職業奉仕について」

—佐原市 第349区地区大会R.I会長代理
前原勝樹パストガバナー講演抜粋—
会員研修委員会 森(幹)副委員長

ロータリーの進化の過程に最初に生れた奉仕がこの職業奉仕であります。初期のロータリアン達は心の友を求めて集まったのでありますが、親睦の度が進むにつれてお互いに職業上の助け合いが始まりました。これは当然の成り行きと申せましょう。しかし時を経るにつれて会員の中から批判の声が出て来ました。私達だけに都合のいい会では発展はムズかしい。この相互の助け合いの精神を一步前進させて会員以外にまで及ぼす為には、私達の職場から取敢えず顧客や依頼人に向かって広げようではないかと、こうして職業奉仕が生まれたのであります。ロー

タリアンなら誰にでも、何時でも出来る奉仕が職業奉仕であります。しかもこれはロータリー独特の奉仕分野であってこれが他の奉仕団体と異なった点であります。しかしこの金看板とも言われる職業奉仕の現状はどうでしょうか。少なくともフォーラムやアッセンブリーでみる限りでは他の奉仕部門に比べて低調の感はありませんか。ではその原因はどこにあるのでしょうか。一口に言えば職業奉仕はムズかしい、判らない。ということでしょう。なぜ判らぬか、それは職業奉仕と社会奉仕との区別が不分明の点にあると思います。

ここに両者を区別する事例をあげて考えてみましょう。タクシーの運転手があつて客の求めに応じて行先の家を捜し廻つたとします。彼はアドレスのメモを便りに何回も車を止め、或いは車を降りてたずね尽し、遂にさがし当てたとします。これは運転手としての職業奉仕です。なぜなら料金をもらつて客を希望するところに届けるのが彼の職業であり、その職業の中で客に親切をつくしたからであります。ところが彼が車庫へ戻る途中、老婆が重荷をもって道に迷っているのをみかけました。行先を聞いてみると幸い車庫への帰り途にあたるので、無料でお婆さんを乗せて行先へ届けてあげました。この行為は職業奉仕ではなく社会奉仕であります。なるほど職業に使う車に乗せたのだから職業奉仕のように思われます。しかし正当な料金をもらつてこそ職業であつて、いくら職業用の車を用いたからといっても無料で乗せるのは職業ではありません。彼は客でない不特定の人に親切をつくしたのですから、一人対一人でも社会奉仕に属するのであります。勿論、無料奉仕は立派な事ですが、無料の奉仕を職業奉仕と考えると、出来やすい職種と出来にくい職種が出て来ます。それでは誰でも出来るという職業奉仕の特性が失われます。

こうした考え方の誤りが職業奉仕を判らぬもの、ムズかしいものにして、その発展を妨げています。

ニコニコBOX

- 良い事がありました。 大嶋会長
- 誕生日でした。 鈴木会員
- 北電さんありがとう。 高橋会員
- 弁当足りませんでした。 辻本会員

前 回	314,000円
今 回	6,000円
累 計	320,000円

プログラム

来賓卓話「農泊について」

留萌観光協会

常勤理事 海東 剛哲 様

本日は貴重なお時間をいただきありがとうございます。留萌観光協会常勤理事の海東と申します。常勤理事という事で常に働け、勤務せよとの事で、唯一の常勤理事となっております。日頃より皆様には大変お世話になっております。本日武田会員さんからのお願いにて、農泊と言うキーワード、あまり聞きなれないと思いますが、この取り組みについて皆様にご理解をいただきたいと説明に参りました。

農泊、農に泊まると書いてノウハクと言いますが、よく“農家民泊でしょ”と言われます。もちろん農家民泊も含まれておりますが、もっと大きなカテゴリーで農村漁村に留まる所の農泊でございます。この事業は農林水産省が推奨している事業で、2020年の東京オリンピックの時までにはこの農泊を推進する地域を増やし、東京や札幌などの大都市圏だけでなく、日本全国が元気になって行こうと考えた事業です。最近では外国人の観光客が増えておりますので、その受け入れとしても考えている所です。農泊推進事業と言うものです。昨年2017年から始まり、国としては3年間で500地域の農泊を取り組む地域を作っていきたいと考えています。現在2017年度には200地域、北海道には24地域が採択されています。2018年今年度には北海道は10地域11地域と、現在も追加募集していますが、



留萌市では留萌観光協会が中核団体となって行政から許認可事業として国からの交付金があります。隣町の小平町では小平町の役場が事務局を担って小平町農泊推進協議会を農家、漁業者が集まって立ち上げております。

農泊の定義は、先ほど言った農家民泊は含まれますが、それだけではなくて、農村漁村も含まれ、伝統的な生活体験と地域の人々との交流を楽しみながら農家民宿、古民家、留萌には古民家などはありませんので、空き家もしくは空き店舗などと考えてもらって結構です。その様なものを活用した多様な宿泊手段によって旅行者にその土地の魅力を味わってもらい、滞在型旅行となっております。ですから、留萌では別に農村だけではなくて、勿論漁業体験、森の山菜取り、また商店街の方々に協力を得ましてただ食事を食べるのではなくて体験型の食事として本物の留萌を楽しんでいただくなど、色々考えております。国でも農泊の事を英語で言うと“オーセンテックジャパン”と言って、本物の日本を知る、本物の留萌をこの農泊を進めながら人も含めて体験していただきたいと思っています。この国が説明する小難しいものは基本的理念、予測不可能性とか文化的独自性とかあまりイメージ出来ないものがありますが、簡単に言いますと、滞在してくれている、来てくれている旅行者にドキドキワクワク感を与える。文化的独自性とは、暮らしにおける留萌らしさをキチッとアピールしましょう、また非合理性の合理性、普通ではないものが普通という、地域では普通でもお客さんにとっては普通ではないという事です。そして品質加工の信頼性とは、無理してお客様をもてなすのではなくて、現在

第10回 9月12日(水) 天候/晴

やっているものを身の丈で提供してきましょうと言うものだと私は捉えています。一番大切なのは継続的持続可能性、これはとにかくビジネスとして成立させていかなければ、いくら現在国の事業としてあるけれど将来続いていかない。今まで農村漁村子供交流事業という形ですとこの事業をしてきましたが、やはり子供の事業だけではビジネスとして成立が難しく、現在この事業は継続していますが、やはりビジネスとして成り立つ事業にしていかなければならないという事で、言い方は悪いですが、海外から日本に来る留萌に来る外国人観光客の方はお金を持っていますので、事業対象としてビジネスを成立させていく事を考えています。また世代継承性という事で、まずは我々が60・70・80代の方々の昔の経験を伝え繋ぎ、それを今の高校生などの若者に伝え繋いでいきたいと思います。今までやってきた事業、農村漁村子供交流事業も勿論、農泊推進の一環です。里山海暮らし、これがやはり自然で留萌の身の丈にあったキーワードになるのだらうと思います。

今までにやってきた事業について簡単に紹介させていただきます。農村地域で農家に泊まるのがベストですが、時期を考えなければ農家の方が大変で、人手不足と担い手不足から忙しいのに農村漁村体験が出来るかと言う事になります。そこで役割分担をしっかり持って行えば継続可能だと取り組んできています。農家さんには農家さんの役割、体験をさせていただいたり、おいしい野菜を採らせていただいたりといった仕事が農家さんのお仕事で、子供たちのケア、もしくは生活食事といったものは、出来る人がやっていければ良いといった考え方で、現在、出来る人が出来る形で行っております。この写真のものは、旧幌糠中学校を利用して（農業支援センターとして使われています）その様な所を使用して一緒に料理を作ったり、拠点として農家体験漁家体験をしています。範囲は留萌が営業窓口として役割分担を引き受け、留萌管内の魅力をアピールしてお客さんをどんどん集めて行こうと思っています。フィールドとしては天売島も含め、増毛の山奥に山菜を取りに行っ

たりとか、天塩の農家で酪農体験をしていただいたりとか、それぞれがプレーヤーとして活躍していただいて子供たちとの触れ合いを経験として積んでいます。昨年には子供たちと釣りをしたのですが、全然釣れなくていた所に、米倉水産の漁船がカレイの刺し網を積んで帰ってきて、子供たちがそれを見て興味深々だったので、作業場へ見学に行ったら「魚を分けてやる」と言われ、魚の網外しを体験する事になりました。天塩では酪農家の所で、子供たちに「ちょっと触ってみるか」という事で貴重な体験を経験させていただいています。また、子供たちの相手を私達もそんなに手があるわけではないので、その地域の高校生たちがボランティアとして活動を補助していただいています。良きお兄さんお姉さんとなって面倒を見ていただいています。もちろん地域に為になると思ってやってきていますが、実際に関わってきたプレーヤーにも喜んでいただいています。私たちがやった事で子供たちが大変喜んでいられると言われます。子供たちを通して子供たちの両親の反応が良く、リピーターの方も多くなってきています。

今年の夏に“わらしべキャンプ”と言うものを開催しましたが、5泊6日で南留萌を楽しむというものです。1名1泊8000円の計算で留萌の子供たちは42000円で、旭川からは往復賃金を含めて44000円で、札幌はバス代4000円を含めての46000円を参加料としていただきました。今回は14名の参加をいただき事業を実施いたしました。この様に色々な事業を開催するにあたり、旅行業法の仕組みがありまして、移動手段でも公共交通機関や自家用車で行くという様な事が出来ませんので、バスでの移動。それと私たちが旅行業法の決まりでお金を集める事が出来ませんので、沿岸バスさんに商品を販売していただいて、その運営を私たちが委託を受けるという形を取っています。赤字にはなりません。スタッフの賃金が出るようにはなっておりません。5人の子供たちには最低1人の大人が付かなければなりませんし、プログラムを提供してくれている農家さん漁業者さんにはキチッとお金を払っていかなければビジネスにはなり

ませんので、色々と検討を重ねております。子供1人1泊8000円が限界かなと思っておりますし、ビジネスとして訪日外国人とかの富裕層を狙ってこれをビジネスとして、もらえる処からもらって行こうとずるい考えですが、その様に思っております。色々と検討してまして、会員さんに蛇の目寿司の森さんがいらっしゃいますが、例えばお寿司を握る体験を、夏であれば忙しくて出来ませんが、例えば冬であれば、正月の新年会が終わってればそんなに忙しくないと思っておりますので、例えば蛇の目さんでお寿司の握り体験。増毛の国稀さんでは冬であればこんな事が出来るよっていう事で、奥座敷での利き酒体験をする等、蛇の目さんではお昼時は忙しいでしょうから昼前の9~10時半位の間とかに握っていただき、それを持って増毛に行き、国稀の奥座敷にてお寿司を食べながらお酒の説明を受けるなど色々なプログラムを考えて、楽しむ方法もございます。外国人を対象に日本を色々知ってもらおうという事で、神社にお願いして、どんと焼きが終ればそんなに忙しくないなので対応してくれるとのことで、お祓いをして巫女体験等もプログラムとして行ってみました。また、浜中の聚福寺さんで月に1回ヨガ体験、座禅なども行っておりますが、その外国人バージョンで、波の音を聴きながらヨガ、座禅体験をしてもらい最後にお抹茶をいただくプログラムを提供していただいて、この西蝦夷で日本を楽しむというタイトルで、「よこそ」という海外向けのサイトを立ち上げ、クラブツーリズムさんがやっているサイトで販売をいたしました。「いくらか？」と言いますと、大変高く、当然全てタクシーで移動いたしまして、二次交通というのが留萌は弱い所がございまして、増毛と留萌を結ぶだけでも半日のタクシー借上げ料が発生し、半日プログラムで蛇の目さんで蛇の目スペシャルを食べて、国稀に行って1時間位お酒について学んで、座禅をするというプログラムで、昼くらいに留萌駅に着いてタクシーに乗って3ヶ所を回り、4時のJRで札幌に帰ってもらうという半日日帰りプログラムで、1人2万2000円です。そして1日プログラムで

は、早い時間に留萌に入ってもらって6つのプログラムより3つを体験していただいて、一人3万6000円です。1泊2日ですと全てを体験していただいて5万2000円になっています。タクシー料金を入れるとこの位になってしまいます。勿論、旅行ツーリズムさんもピンハネしますので、この位の金額にはどうしてもなってしまいます。去年は国の事業として国の補助もあり、タクシーのお金は補助で賄ってこれたのですが、補助も2~3年で終わってしまいますので、無くなっても販売の出来る商品でないといけないという事で、実際この金額で海外に向けて販売していただきました。結果として1日、1泊2日の商品は売れず、半日のプログラムが2名に売れまして、本来東南アジアの方がターゲットでしたが、欧米の方にお買い上げいただき、4万4000円の収入がクラブツーリズム、業者の方を通してありました。東南アジアの方々はインスタ映えする様な写真が撮りたいと言うのが中心で、まだ欧米の様に体験という所までは意識が向いていないと言った所です。この様な結果になりましたが、これは今年の1月15日から60日間だけの販売でしたが、この経験を活かして、これはこれでベースを生かし、色んなものを掘り下げながら新しいプログラムを考えていきたいと考えています。

それではどんな成功事例があるかと申しますと、熊本県の人吉球磨、北陸だと金沢、東北だと遠野などがあります。私自身、今年の11月から研修で遠野に行かせていただきました。遠野ではどの様に農泊に取り組んでいるのかと言うと、農家だけではなく、遠野が好きで東京からの移住者の方がお客様を迎えたりとか、シイタケ農家さんでは食事を一緒に作ったり、気構えしないで自宅にいるような感じで宿泊が出来る形です。農泊のルールとして1泊8000円くらいで2食付き。普段の食事を提供し、普段より1品位多くおかずを付けてあげる位の気持ちでお客様をお迎えすることになっています。遠野ではリピーターの観光客も多く、大学生がおばあさんの宿泊先に3回も会いに行っている事例もありました。私も1ヶ月間遠野にいましたが

第10回 9月12日(水) 天候/晴

その内の6日間は、この民泊を体験して来ました。手作りのおもてなし、印象に残る接待で、私自身感じた事は、遠野の人達が義務感で行っているのではなく、楽しく自分たちの出来る事をしてあげる。とにかく、身の丈に合った暮らしの御裾分けを精一杯やっという遠野の農泊、グリーンツーリズムでした。これを留萌に置き換えて、留萌らしい農泊コミュニティビジネスを構築出来ればと思っています。

これからの動きといたしましては、夏の事業は終わっておりますので、旅館組合との話し合いで、旅館・ホテルに泊まって留萌の冬を体験してもらおうとか、また、旅館・ホテルで味わえないようなプログラムとして、空き家を活用して新しい滞在型システムを留萌に作っても良いのではと思います。札幌を拠点としないで、逆に留萌を拠点として、札幌・旭川などを回る長期滞在型の観光も考えるべきではないかと思っています。私自身、井原水産さんの先代の社長さんの家をお借りして、築41年ですので色々直さなければならぬ所もありますが、信金さんから融資をいただき、私自身が留萌に引っ越してきて、そこに住みながら、まずは住宅宿泊事業法を活用して、現在申請中ですが、そこに堂々とお客さんを泊めて、留萌に滞在しながら留萌を楽しんでいただく取り組みを始めようとしています。これから皆さんにお声がけして、一緒にセミナーを開催したりして、仲間を増やし

ていこうと思っております。2018年から2019年は国の事業費が付いています。2020年には自走しなければなりません、南留萌でこの事業を進めてまいります。小平には小平のスタンスで農泊に取り組んでいますが、実際には札幌に多くの外国人が来ていますので、その方々に留萌を体験フィールドとして選んでいただき、楽しんでもらう。それから留萌を滞在拠点として札幌・旭川などを楽しんでもらうなどの両建てで考えて、少しでも経済のプラスになれるような取り組みにしていきたいと思っておりますので、今後ともご理解ご協力の程をよろしく願いして、本日卓話のを終わらせていただきます。

9月21日(金)
交通重点区間
スピードダウン
旗の波運動

社会奉仕委員会
PM4:30~PM5:00



プログラム

(第11号・第12号)合併号

- | | | |
|--|--------------------|-------------------------|
| ●本日
会員増強に向けて(会員増強委員会主催) | 会員誕生日
二ノ宮 恵美子 | 結婚記念日
渡部 英次
対馬 健一 |
| ●次週予定
来賓卓話「個性学とは」
株保険ステーション
代表取締役 中田 勝様 | 特別慶祝(銀婚式)
山根 達也 | 福士 幸子
山根 達也 |

No. 2798

第12回 10月3日

出席報告

前
例
会

会員総数……………33名
出免会員……………2名
出免出席……………1名
基準会員出席……………31名
出席率……………100%

前
々
会

第9回 9月5日

欠席会員……………14名
内メイクアップ……………0名
修正出席率……………57.57%

例会/毎週水曜 12:15~13:15 留萌産業会館2F

🖋️ 会長報告 ……………

- 9月21日の交通重点区間スピードダウン旗の波運動に参加された会員の皆様ご苦労様でした。
- 9月15日滝川ロータリークラブ創立60周年記念式典に私を含めて7名で参加して参りました。
- 深川ロータリークラブより2510地区第1グループ親睦ゴルフコンペの案内をいただきました。会員の皆様で参加できる方はぜひ参加願います。

がございました。

9月29日午前9時より、地区補助金事業でもある「留萌お仕事体験(君よ光れ!)」を開催いたします。産業会館集合で、留萌郵便局、北海道電力(株)送配電カンパニー留萌ネットワークセンター、(株)ファミリーケアサービス、(有)大嶋組、(株)錦堂などを回り、7歳から15歳までの男女19名にお仕事体験、お仕事の流れなどを説明して午後3時に終了となっています。多くの会員さんのお手伝いをお願いしていますが、皆さんよろしく願います。会員の集合は8時30分、産業会館です。

📁 幹事報告 ……………

- ・砂川RCより7月8月会報を受領しました。
- ・米山梅吉記念館より100円募金運動のお礼を受領しました。
- ・米山奨学会より2017年度の事業報告と決算報告を受領しました。
- ・そらぶちキッズキャンプより10月8日に行われる、そらぶちフェスティバル2018秋の案内を受領しました。

👤 ニコニコBOX ……………

- ・古稀おめでとございます。 大嶋会長
- ・古稀のお祝いありがとうございます。 対馬会員
- ・古稀おめでとございます。 渡部会員
- ・おめでとございます。 辻本会員
- ・節電ありがとうございます。 山根会員
- ・パットゴルフです。 参加者一同様

前 回	320,000円
今 回	39,837円
累 計	359,837円

👥 委員会報告 ……………

社会奉仕委員会 燕委員長

9月21日に行われた、交通重点区間スピードダウン旗の波運動に参加された会員の皆様あり

第11回 9月26日(水) 天候/曇

プログラム……………

「特別慶祝夜間例会」

對馬 健一 会員

古稀 (昭和24年12月3日生)

ロータリークラブ杯蛇の目カップ

(パット・パットゴルフ) 入賞者

優勝 渡部 会員 準優勝 辻本 会員

第3位 對馬 会員 第4位 関野 会員

ホールインワン賞 (争奪戦の結果)

高橋 会員 / 中出 会員

